

浜松 21世紀都市交通会議【浜松市】

平成20年3月17日設置
平成22年3月23日連携計画策定



概要

浜松市における広大かつ特性のある各地域に対応した市民のモビリティを確保するため、平成21年度に策定した「浜松市地域公共交通総合連携計画」に基づき、各施策を実施し、持続可能で使いやすい公共交通ネットワークを実現する。

現況

【鉄道】

- ・JR東海道本線・新幹線(5駅)、JR飯田線(13駅)
遠州鉄道(18駅)、天竜浜名湖鉄道(38駅)

【バス】

- ・民営バス(約500系統)【遠州鉄道、浜松バス、秋葉バスサービス】
- ・自主運行バス(約100系統)【浜北区、天竜区、北区】

課題

- ・市民ニーズのあった運行の改善
- ・市民生活(高齢者等)を支える公共交通サービスの確保(保障)
- ・乗り換え抵抗を抑えた、一体的な公共交通システムの構築
- ・限られた公的資金を有効活用した公共交通サービスの提供
- ・路線維持や新規導入の基準やルールを導入
- ・過度な自動車利用を控えた日常生活への転換 等

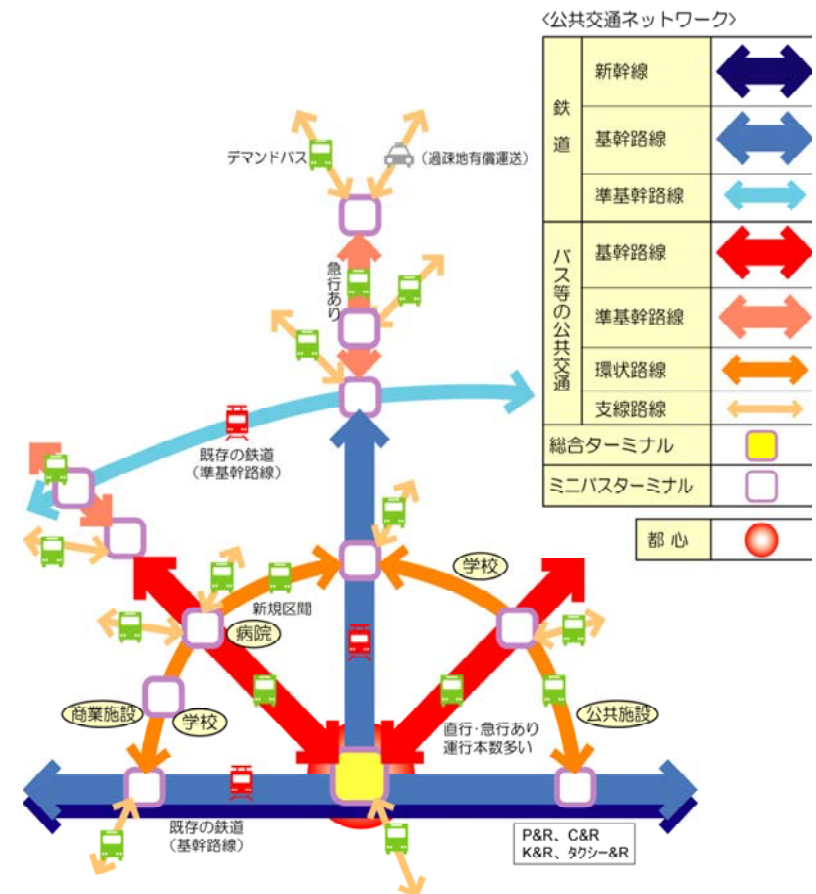
基本方針

公共交通サービス

浜松市の魅力を高める、使いやすい公共交通ネットワーク
市民の生活を支えるために必要な公共交通サービスの保障

仕組みづくり

地域が主役となって育てる、持続可能な公共交通



【将来の公共交通ネットワーク(イメージ)】

目 標

①公共交通ネットワークの構築

都心や拠点、主要施設間を骨格的な公共交通で結び、使いやすく持続性のある公共交通ネットワークの構築を目指す。

- ・機能や役割に応じた路線の設定(基幹、準基幹、環状、支線)
- ・公共交通間や自動車、自転車、徒歩などから乗り換えがしやすい、ミニバスターミナルの整備

②地域が主体となって守り育てる持続可能な公共交通の改善、提供

- ・地域が主体となる地域交通検討会(地域・交通事業者・行政)において、運行計画等を検討し、PDCAを行いながら、効率的かつ需要ニーズにあった運行を目指す。
- ・高齢者等の必要最低限のモビリティを確保するため、「最低保障運行」を提供する。

③モビリティ・マネジメントの実施

- ・過度に自動車交通へ依存しない、交通行動への転換を図るため、市民や学校等と連携しながら、公共交通の利用促進事業を行なう。

評 価

本会議にて、毎年、各事業の評価及び進捗管理、事業計画の見直しを行なう。

(評価事項)・公共交通の年間利用者数、市民満足度 等

事業計画

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
①公共交通ネットワークの構築	← 実証運行(準基幹・環状路線)、待合環境整備 等 →		
②地域が守り育てる公共交通の改善	← 実証運行・評価調査(支線路線) →		
③モビリティ・マネジメントの実施	← モビリティ・マネジメントの実施 →		

浜松市地域公共交通活性化・再生総合事業 実施予定箇所(H22~H24)

●●●●●	バス路線の再編「準基幹路線の実証運行」
●●●●●	バス路線の再編「環状路線の実証運行」
—	バス運行サービスの高度化 通勤バス等の導入(バス利用者が多い区間で実施)
●	待合環境の整備
—	バス路線の再編「支線路線の実証運行」
—	モビリティ・マネジメントの実施(市全域) 地域と連携して公共交通の利用促進を実施

